

# クマ被害対策の提言も

## 能代高 1年生 市役所で学習成果発表会

能代高(山田浩充校長)の1年生がグループごとに地域課題解決に向けて調べた学習成果の発表会が18日、能代市役所で開かれた。コロナ禍での農業生産者支援やクマ被害の防止、がん予防に向けた食生活改善などさまざまなテーマを取り上

げ、高校生目線から解決策を提言した。学習は、同校で展開するキャリア教育「ニューウィルプロジェクト(NWP)」の一環。地域社会が抱える課題に関心を持ち、問題意識や解決意識を養うことを目的に、1年生は▽アグリ

▽グリーン▽ヘルス▽ライフ▽ツーリズムの5領域に分かれ、グループごとに課題を設定し、昨年6月から探究活動に取り組んできた。この日は先月20日に同校で行われた優秀発表会で発表した5グループが来庁し、「市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」の委員らに学習成果を披露した。

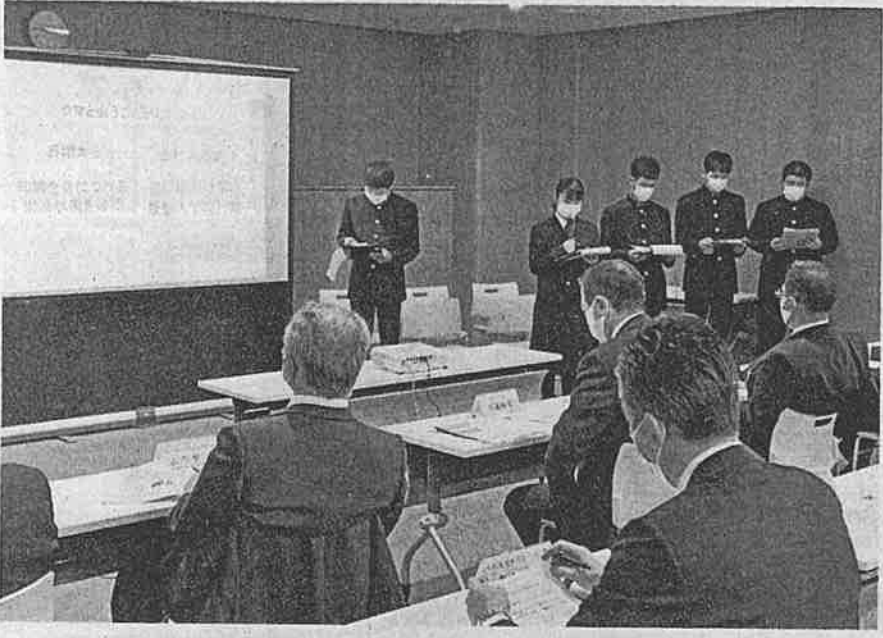
このうち「クマによる被害とその対策」と題して発表した「グリーン」領域の山本レオ君の班は、ツキノワグマの生態を踏まえ、動物の視点に立つて被害防止策を講じることなどを提案した。

市民が取れる対策として▽クマの目を見てゆっくり後ずさりする▽背を向けない▽クマを興奮させない――の3点を挙げ、「クマは動物の死骸も食べるため、死んだふりをすれば助かる

とはいえない」とした。クマが山から人里に下りて来る数を減らすためには「クマの隠れ場所となり得るやぶをなくすため、山や森で草刈りなどを行い、人間と野生動物のすみ分けをすることが効果的」と述べた。また、森林組合やボラ

ンティアの協力を得て活動を行うことや、被害の未然防止を図るために「定期的な講演会の開催」「市内放送で注意喚起する」といった普及啓発活動を展開する案を提言した。

斉藤市長は「クマによる被害が出るなど共生について考えないといけないため、とても時宜を得たテーマ。講演会やボランティア活動は参加者が動物愛護や自然保護を考える良い機会となる。一般の市民にもクマへの理解を深めてもらえるように、頑張っていく」と講評した。



能代高の1年生が地域課題解決に向け、学習成果を発表(能代市役所で)